

1857年に延長10kmの最初の鉄道が建設されて以来、1945年までに総延長は42,036kmに到達したが、その大部分は外国資本によるもので、そのうち国有は30.8%にすぎず、58.2%はイギリス資本、11.0%はフランス資本に属していた。

1946年政府はフランス資本の鉄道を買収し、1947・11・1付をもって移管された。イギリス資本の鉄道は1948年に政府へ移管されたが、買収の完了したのは1949・5・5であった。

1948・7、鉄道その他の主要輸送機関全部が国有化され、鉄道は運輸省管轄のもとに鉄道管理委員会 (National Directorate of Railways) によって運営されることになった。1952年の法

令によってすべての国有輸送機関はアルゼンチン国有輸送機構 (E. N. T.) に統合され、運輸大臣を委員長とし、3名の次官および3名の関係輸送機関総支配人をもって構成する管理委員会が設置された。政策・各種輸送機関の共同・合併および財政の事項については管理委員会が最高の決定権をもっているが、輸送業務の遂行については各個の輸送機関に自主権が与えられている。

鉄道はそれぞれ独立した7鉄道に分れ、1鉄道を除きすべて著名な人物の名がつけられている。各鉄道は相互間の緊密な協力の下に運営されている。各鉄道の軌間別延長は表のとおり。

板

